

特別連載

いばらき童子くん

誕生秘話 Vol.1



●連載執筆協力：(有) マツナガ電器

会長 松 永 豊 氏

2022年4月からスタートした「いばらき童子くんの僕をつかってくださいプロジェクト」。

茨木市民から愛されている、いばらき童子くん。

では、いばらき童子くんが誕生したストーリーを、皆さんはご存じでしょうか？そこには、当時の茨木青年会議所のメンバーの方々が一生懸命に作り出された物語があります。「いばらき童子くん誕生秘話」ぜひ、お読みください。

私たちのまちにもっと個性が欲しい

1981年、(社)茨木青年会議所が男女1500名の方々に、まちの安全・健康・利便・快適・個性の5要素について「市民意識調査」を行い分析した結果、安全・健康・利便・快適の4つについては満足度が高いが、「個性」については満足度がかなり低く、まちの誇りとなるもの、『茨木の顔』になるものを市民の方々が望んでいることがわかりました。

茨木が誇れるものは『有形無形を通じて何かないのか』。その後も、調査からの検討が重ねられていきました。そして1986年、「まちを知ることからまちづくりは始まる」という観点から、まちづくり推進委員会による事業へと展開をしていきました。

まちを知るにはまず実際に自分達の心で感じ、目で確かめ、手でさわり、足で歩きながら茨木の本当の姿を、映像を通して探し求めていこうと、茨木青年会議所が1986年度(茨木JC創立25周年)の記念事業として、「すきやねん茨木」のスライドを作成しました。そしてさらにこのスライドがきっかけとなって、『茨木を深く見つめ、もっとすばらしい未来の茨木を私たちとともに生み出していく人々が増えていってくれば』という想いで、市内各地へ出向き上映会を開催しました。上映後、茨木について意見交換する場を持つことにより「こんな所があったのか」「ほかにもいろいろあるよ」など、多くの方から反応がありました。

そこで、茨木の『良さ・美しさ・誇り』を再確認・認識していただくと共に「ふるさと」として感じ、愛し、誇れるまちづくりへの一助にさせていただくため、1987年度、「VIVA茨木ふるさとみつけた」をテーマに、四季折々の美しい自然・街並・史跡や文化・風俗・伝統行事等で、将来に伝えていくべきと考えておられる場所や内容等を、広く市民の皆様から募集しました。その結果、約400件ものご紹介をいただき、岡市正規委員長を中心とした選定委員会において「ふるさと茨木」にふさわしい25点が、「ふるさと25景」として選出されました。

さらにその中でも、最も伝え残してほしいものとして「茨木童子」が挙げられました。

8月号に続く



茨木市福祉文化会館 5Fホールに展示されています

川中雅人税理士事務所

税理士 川中雅人

〒567-0816 茨木市永代町7番15号
TEL (072) 624-3916 (代) ~ 8番 FAX (072) 626-8327

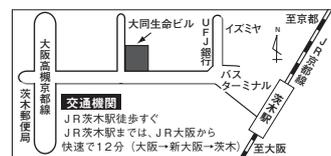
いばらき総合法律事務所

取扱業務：民事事件・会社法務・刑事事件・労働問題
家事事件・不動産・破産・その他

弁護士 横山 耕平

弁護士 浅田 忠

弁護士 大西健太郎



〒567-0032 大阪府茨木市西駅前町5番10号
大同生命ビル3階

TEL 072-631-5560 FAX 072-631-5570

特別連載

いばらき童子くん

誕生秘話 Vol.2



●連載執筆協力：(有) マツナガ電器

会長 松 永 豊 氏

ふるさと25景

「VIVA茨木ふるさとみつけた」をテーマに、四季折々の美しい自然・街並・史跡や文化・風俗・伝統行事等で「ふるさと茨木」にふさわしく、また将来に伝えていくべきと考えておられる場所や内容等を、広く市民の皆様から募集し、選考委員会の選考を経て、25点が、「ふるさと25景」として選出されました。(右表)

「ふるさと25景」の中でも、最も伝え残してほしいものとして「茨木童子」が挙げられました。「茨木童子」とは謡曲や歌舞伎の題材にもなっている民話で、そのストーリーの中にみられる、童子が川面に姿を映したとされる「貌見橋」の跡には、現在石碑が建てられています。

茨木童子の民話

昔、茨木のある村で、元気な赤ちゃんが生まれました。うまれてすぐにゴソゴソとはいだし、口の中には歯がはえそろっていました。それを見て母親は、びっくりして死んでしまいます。父親は悩んだ末に、その子を九頭神さんの近くにあった床屋の前にこっそりほかしてしまいました。

床屋の夫婦は「天からのさずかりもの」と思って育てますが、子供はわんぱく坊主でした。そのうち仕事を手伝うようになりますが、客の顔を剃っているとき、誤ってカミソリで顔に傷をつけて血がにじみました。子供は、あわてて血をぬぐって舐めますが、塩がなくて、なぜか、懐かしい感じがしたのです。それからは、わざと客の顔に傷をつけて血を吸うようになりました。

ある日、子供は川で自分の顔をうつしてみるのですが、頭にツノがはえているので首をかしげます。養っていた夫婦はそれを見ていて、あくる日にその子を北の山にほかしにいきます。それから、その子は大江山の酒呑童子の仲間に入って「茨木童子」といわれ、京に出没して暴れ回り、「茨木童子」は天下に恐れられるようになりました。(※諸説あり)

9月号に続く

ふるさと25景

●弁天さん

●川端通りと
川端康成文学館

●福井・新屋神社

●総持寺

●桜通りと佐和良義神社

●西河原公園

●隠れキリシタンの里

●「希望の泉」と官庁街

●南茨木周辺の街並

●真龍寺

●将軍山古墳

●磨崖仏

●安威川上流

●梅林寺

●茨木童子

●茨木神社

●太田の一里塚

●三島うど

●椿の本陣

●青少年野外活動センター

●浄瑠璃音頭

●継体天皇陵

●上泉町の街並と
田中の丸また

●葦分小唄

●茨木フェスティバル

大正9年10月1日 今の茨木市主原町で創業

メディカル・サニタリーバルブ、ダイアフラム、シールパッキングメーカー

 大洋パッキング株式会社

代表取締役社長 樋口 淳一

本部：茨木市真砂

山口工場：美祢市大嶺町

〒567-0851 茨木市真砂3-18-8

●TEL 072-634-2000 ●FAX 072-634-1181

川中雅人税理士事務所

税理士 川中 雅人

〒567-0816 茨木市永代町7番15号

TEL (072) 624-3916 (代) ~ 8番 FAX (072) 626-8327

特別連載

いばらき童子くん

誕生秘話 Vol.3



●連載執筆協力：(有) マツナガ電器
会長 松永 豊氏

「いばらき童子くん」誕生

8月号では、「茨木童子の民話」を紹介しました。民話では、明るく希望に満ちたお話とはいえません。鬼が持つ暗いイメージを明るく転換させることで、地域を再生させる手がかりとして、『鬼(茨木童子)自身も再生させることができるの



ではないか』。更により多くの市民に、「ふるさと意識」を高めてもらおうという思いから、茨木童子をシンボルキャラクター化することにより親しみやすさを持ってもらおうという企画が生まれました。



一般市民の方々から茨木童子のイラスト画を広く募集し、計1474点の応募があり、イラスト審査委員会の

審査により、イラストレーター 元井 進さんの作品が最優秀賞に選ばれました。しかし、当時、怖い鬼をシンボルキャラクターにすることには否定的な意見や反対する方も多く、説得には時間がかかりました。

そこで、まちづくり推進委員会(松永豊委員長)では、民話を丹念に調べました。その中で、「茨木童子が育ての親を心配して帰郷すると、村人に温かく迎えられ、感激した。」という言い伝えがありました。茨木童子の心優しい部分にスポットライトを当て、シンボルキャラクター化することにしましたのです。

10月号に続く

障がい者法定雇用率・障がい者採用で困っていませんか?

当事業所では企業で働く目標を持った障がい者が、作業を行いながら一般就労を目指して日々仕事に取り組んでいます。

就労継続支援A型事業所

オリエンタルワークス

☎ 072-665-7496

大正9年10月1日 今の茨木市主原町で創業

メディカル・サニタリーバルブ、ダイアフラム、シールパッキングメーカー

大洋パッキング株式会社

代表取締役社長 樋口 淳一

本部：茨木市真砂 山口工場：美祢市大嶺町

〒567-0851 茨木市真砂3-18-8
● TEL 072-634-2000 ● FAX 072-634-1181

特別連載

いばらき童子くん

誕生秘話 Vol.4



●連載執筆協力：(有) マツナガ電器
会長 松永 豊氏

生まれかわった茨木童子は動き出した！

「茨木童子」がまちづくりのシンボルキャラクターとして選定されると同時に、これを一過性で終わらせることなく、「新たなまちづくり」・「市民のふるさと意識の高揚」に尽力すべく、普及活動として「ふるさと昔話の会」(1989年)、「いばらき童子人形劇」(1990年)など茨木の人々の心に残るよう紹介され、まちを愛する人づくりに貢献しました。

また「いばらきのおに」を新しいキャラクターで書き換えた絵本「いばらき童子」を小学校や図書館に配布するなど、多くの市民に親んでもらおうとアピールがされました。

それでも悪役のイメージが拭えないのか、キャラクターの使用をためらう事業所さんも少なくはありませんでした。茨木商工会議所の商業部会が主体となり着ぐるみも制作されましたが、出演に関しては年1、2回という状況であり、あまり表舞台にでる機会はありませんでしたが、ゆるキャラブームの到来により状況は一変します。

行事の出演も増えていき、子供を守るステッカーやピンバッジ洋菓子店のケーキやお菓子のデザインに使用されるなど、地元で目にする場面が増えていきました。さらに1988年からは茨木フェスティバルの顔としてシンボルマークやフロート車等に毎年登場するようになり、表舞台での活動が増えていくことになり、まちづくり事業には欠かせないものとなったのです。

ふるさとの歓迎ぶりに、茨木童子は涙を浮かべていることでしょう。

11月号(最終回)へ続く



絵本「いばらき童子」



茨木フェスティバル ①



ピンバッジ



初代 着ぐるみ



茨木フェスティバル ②

特別連載

いばらき童子くん

誕生秘話 最終回



●連載執筆協力：(有) マツナガ電器

会長 松 永 豊 氏

そしてみんなで茨木のまちを創っていく

わがまち茨木に「茨木童子」をシンボルキャラクターとして生み出したことは、本当に意義のあるものになりました。「茨木童子」だけでなく、茨木に残る多くの史跡や文化財と共に大切にしなければなりません。まちを見つめ考えていくのは府や市の行政だけではないのです。ほとんどの市民の皆様は、すでに何らかの形でまちづくりに参加されています。皆様のお住まいの自治会や子供会、PTAや各種団体等々がそうです。そこで、その今いるところからもう一歩踏み出してみてください。

明日の茨木を見つめて楽しく、そして真剣に語り合うことによって、明るい心の通い合うまちの姿が浮か

び上がってきます。私たちの茨木を、今よりもさらに「愛し誇れるまち」になるように、「いばらき童子くん」とともに育んでいきましょう。

終わり

あ と が き

「いばらき童子くんの僕を使ってくださいプロジェクト」を2022年4月よりスタートしました。きっかけは、会報誌の表紙撮影にて、童子くんの着ぐるみを着て茨木市内で撮影する際に、小さなお子さんから年配の方まで、多くの方々が近づいて来てくれたり、手を振って喜んで頂きました。童子くんが茨木市民から愛されていることを、とても実感しました。

しかし、童子くんが生まれた背景を詳しく知っている人はあまりいません。(有) マツナガ電器の松永会長から直接お話を聞き、また当時の資料を今でも大切に保管されていたお陰で、後世に伝えることができる資料を作ることができました。

童子くんが生まれるまでには、当時の茨木青年会議所の方々の多大な労力と情熱の結果であり、今後も童子くんをより多くの方に知っていただく為に、プロジェクトを推進していきたいと思えます。文中ではございますが、本特別連載にあたり、多大なご協力を頂きました松永会長に心より御礼申し上げます。



TOKIO MARINE
T N P

(株) 東京海上日動パートナーズかんさい
北摂支社

〒560-0082 豊中市新千里東町1-5-3千里朝日阪急ビル16F
TEL : 06-6170-8927 FAX : 06-6170-8929
URL <https://tnp-kansai.jp/>

東京海上日動 代理店
東京海上日動あんしん生命 代理店

事務所・ご家庭で…

新会員募集中

人手がほしいときには、お手伝いします。

- 一般事務・経理
- マンション・寮・駐車場管理
- チラシの配布
- 賞状・宛名書き
- 事務所・建物の清掃
- 家事サービス
- 襖・障子・網戸の張替え
- 庭の草刈り



(公社) 茨木市シルバー人材センター

茨木市東奈良1丁目4-1

電話 072-634-8990 FAX 072-634-9449

URL <http://www.ibarakisc.or.jp/>

事務局業務時間 午前8:45~午後5:15(土・日・祝日は休み)